

第194回研究科委員会・第297回教員会議 議事要録

日時：令和2年1月15日（水） 14：30～16：30

場所：後援募金記念棟 会議室1-2

議題

研究科委員会

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 令和元年度博士前期課程最終試験日程について

資料1に基づいて説明され了承された。2月18日（火）に4会場を用いて実施される。

(2) 令和元年度博士後期課程最終試験日程について

資料2に基づいて説明され了承された。2月19日（水）に実施される。

外国人の氏名表記は出身国の慣例に従って行い、カタカナはその表記のフリガナとして付記することに整理したとの報告があった。

2. 国際交流センター運営会議（教員会議：報告事項より移動）

(1) 2020年度の国費留学生の受け入れについて

シンガポールからの留学生を受け入れる通知が文部科学省からあったことが報告された。4月に環境放射能学専攻に入学する予定である。

教員会議

[審議事項]

1. 学類長

(1) 学類長候補適任者の選出について（投票）

学類長が理事・副学長に就任することとなったため、4月からの学類長を選出する必要が生じたことが報告された。

資料3に基づき、人事委員会で検討した今後の選出日程が説明され、了承された。

任期は現学類長の残任期間（令和3年3月まで）とすることも了承された。

3名連記の投票が行われ、投票総数42票で、教授6名が学類長候補適格者として選出された。第5位の得票数が同数であったため、規定どおり6名を選出した。

今後、学生・特任教員・事務系職員から意見を聴取し、1月29日（水）の教員会議で候補適任者を選出する。意見聴取は、環境放射能研究所に対しても行う。

2. 教務委員会

(1) 2019年度非常勤講師計画について

資料4に基づき説明され、了承された。

(2) 令和2年度学修案内について

資料5に基づき、過年度生のコース配属ルールについて3つの案が示され説明された。現行ルールと同様の「案1」としたい旨の提案があり、了承された。総GPAの定義を加えるなど、現行の学修案内の記述を改定することも了承された。

(3) 転学類（転学群）制度の改正について

資料6に基づき説明された。本学類創設以来、希望者がいなかったことが併せて報告された。食農学類が設立されたため、希望者が出る可能性が高くなったのではないかとの発言があった。2019年度入学生より成績評価方法が変更になっておりSの割合を抑制するため、2018年以前のGPAと同じ条件を設定すると実質的には厳しいものとなるという指摘があった。制度の概要は了承され、成績の要件をどのように定めるかについて継続して検討することとした。

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 令和2年度3年次編入合格者の専攻希望届の提出状況について

資料7に基づき編入合格者3名の専攻所属希望が報告された。

(2) 第18回全学教務協議会について

(審議事項)

・福島大学学則の一部改正(案)について

資料8に基づき報告された。前期・後期の始期・終期をフレキシブルにすることに関して意見が求められた。前期に大規模自然災害が発生するといったことも想定されるため、後期のみに限定する必要はないのではとの意見が学類運営会議で出されたことが紹介された。後期の授業開始を早めた場合、大学院10月期入学者は入学式の前に授業が開始される可能性があるという指摘があった。後期の開始を恒常的に早くする必要があるのではないかとの発言があった。出された意見は全学教務協議会で報告し、検討を継続する。

(報告事項)

・令和2年度学類・大学院開講科目「シラバス」登録について

資料9に基づき報告された。シラバス登録締切は1月31日(金)であり例年より早いことがアナウンスされた。

・平成28～30年度卒業生・修了生アンケートの実施について

資料10に基づき、アンケートを実施していることが報告された。

・平成28～30年度就職先企業・公共機関アンケートの実施について

資料11に基づき、アンケートを実施していることが報告された。

2. 基盤教育委員会

(1) 2019年度基盤教育科目等非常勤講師計画について(単発)

資料12に基づき、報告された。

3. 奨学寄附金等の受入れについて

資料が投影され、奨学寄附金2件と受託事業1件の受け入れが報告された。

4. その他

(1) 2020年度グループアドバイザーについて

学生生活委員長から資料13に基づき、グループアドバイザーの担当予定者に変更はないが、以前の教員会議資料を修正したことが報告された。

教育研究評議会

第327回(12月17日開催)報告

[報告事項]

(1) 学内規則等の制定について

学外理事を増やす必要があるため、理事の総数を変更する改定が行われた。

(2) 就業規則の一部改正について

年俸制の給与規程の改定について、職場代表者からの意見はなく、決定した。

(3) 令和2年度運営費交付金「成果を中心とした実績状況に基づく配分」について

運営費交付金の配分について報告された。

(4) 令和2年度科研費申請状況について

申請件数が121件(16件の増加)など、申請状況が報告された。

(5) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

企画・コーディネーター部門長が活動状況を報告した。

(6) 環境放射能研究所(IER)活動状況報告について

所長が活動状況を報告した。

(7) その他

進路状況報告について

卒業予定者・修了予定者は進路状況報告をするが、システムへの登録率が良くないことが報告された。研究室の卒業予定者に登録を呼びかけるよう要請があった。

第328回(1月14日開催)報告

[審議事項]

(1) 学系再編について(意見聴取)

資料に基づき学系組織を8つに再編する案が説明され、意見聴取が行われた。副学長補佐より、学系数を減らす方向で検討した、資料1-1にある各学系の科研費中区分や学類ごとの人数は学系がカバーする研究領域や人数規模を共有するために研究振興課で有しているデータから作成したものである、学系の枠組みを決定したのちに所属する学系を教員に選択してもらう予定である、などの補足説明があった。

そもそも学系は必要なのか、現行の制度では支障があるのか、という発言があった。

学類をまたぐ学系が多いと運用が難しくなる懸念があるため、理工学系・農学系と学類(研究科)と概ね一致するように組織化したらどうか、という意見があった。

現在は学系を基に配分される予算や学内競争的資金があるので、財務上の制度や運用も併せて検討してほしいという意見があった。

学類および大学院の教育の見直しにおいて、学系と学類の分野とがおよそ一致することにより教育における学術的専門性を高めるように制度を設計した。学系の再編により、大学院組織としての分野と学系との関係が複雑化しないことを望むという意見があった。

(2) 平成30年度活動実績に関する年次レポートについて

年次レポートが完成した。

[報告事項]

(1) 次期理事・副学長等候補者について

理事・副学長候補者が決定した。本学類からは現学類長と現副学長が就任予定である。

(2) 役員給与規則の一部改正について

法改正に伴う改正が行われた。

(3) 就業規則の一部改正について

法改正に伴う改正が行われた。

(4) 令和2年度予算(案)の伝達等について

財務省から文部科学省に伝達された概要が報告された。

(5) ロシア科学アカデミー原子力安全研究所と環境放射能研究所との連携に関する協定の締結について

協定が締結された。

運営会議

第134回(12月24日開催)報告

(1) 福島大学フェロー称号の授与について

基金への高額の寄附者にフェローを授与する。

(2) 令和元年度入試関係アンケート集計結果について

アンケート結果が報告された。本学類は第一志望校ではなかった割合が高く、オー

ブンキャンパスに参加していない入学者が多い。大学院進学希望者の比率は、例年と変化がない。

その他

学類長より、3月11日(水)開催予定の研究科委員会は、環境放射能研究所の研究成果報告会と重なるために出席者が定足数を満たすか心配があることが報告された。修了判定を行う必要があるため、日程を確保するよう要請があった。事前に出欠を確認する予定である。

分野長を含む拡大人事委員会で2021年4月に採用する人事について検討していることが情報提供された。2名の採用が可能な見込みである。

公募に当たっては、

本学の研究上の強みの強化

地域への貢献が可能であること

カリキュラムの維持

といった観点が必要である。 と は大学院の充実のためにも必要であり、 は優先度を下げて考えている。

研究員(プロジェクト) 客員教員、客員研究員の申請の一次締め切りが1月29日(水)であることがアナウンスされた。